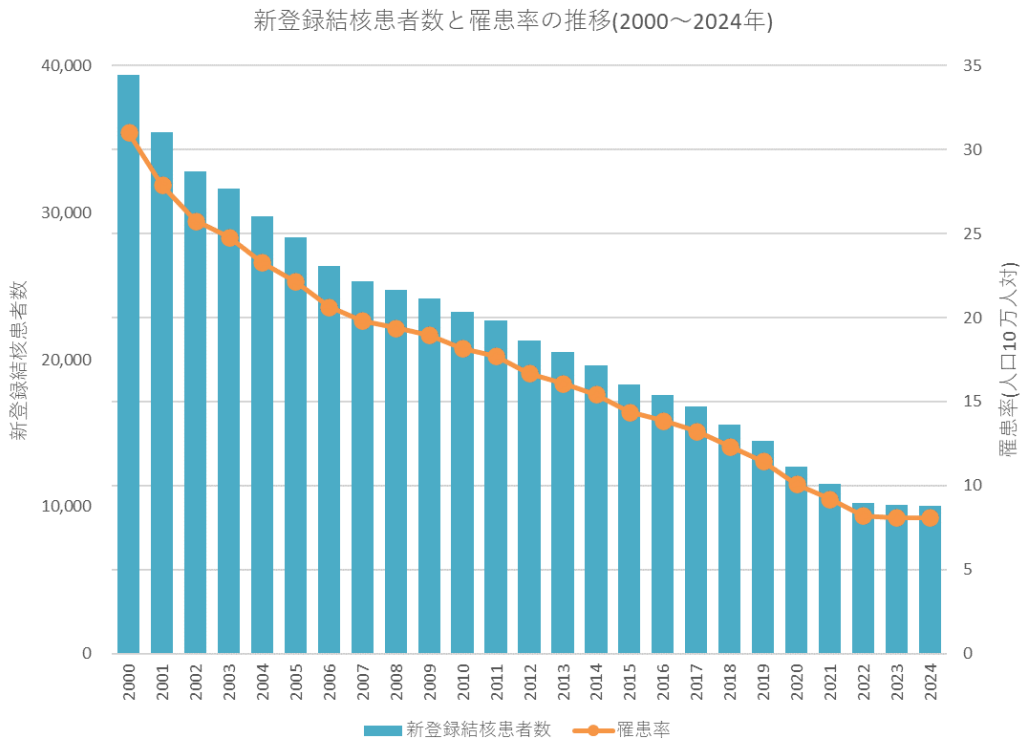
2024 年(令和 6 年)結核年報の概況

新登録結核患者数と罹患率

2024 年の新登録結核患者数は 10,051 人で，2023 年より 45 人(0.4%)の減少であった。
結核罹患率(人口 10 万人対)は 8.1 で，2023 年と同率であった。

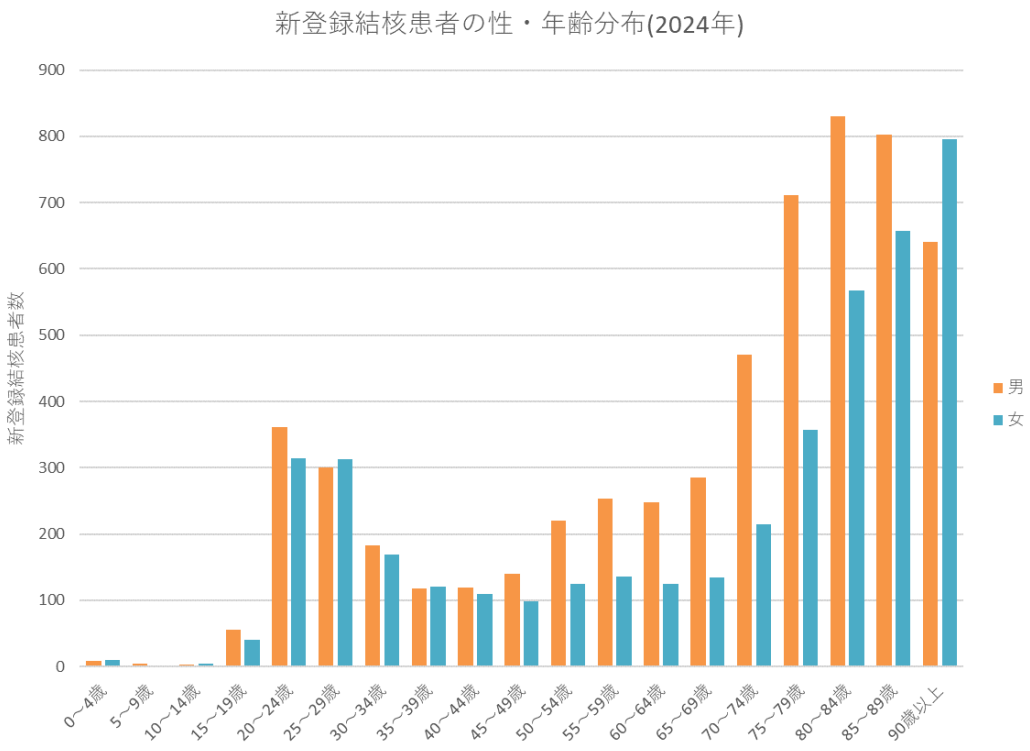
日本の結核罹患率は、2021 年に 9.2 と結核低蔓延国の水準(罹患率 10.0 以下)を達成し、2024 年も低蔓延国水準を維持している。



新登録結核患者の性・年齢分布

新登録結核患者の年齢分布は高齢者層に偏っているが、加えて 20 歳代に外国出生結核患者の影響によるピークがみられる。

性別の新登録患者数は、男 5,758 人、女 4,293 人で、男は女の 1.3 倍となっている。
新登録結核患者の年齢の平均は 66.9 歳(男 67.0 歳、女 66.9 歳)、中央値は 76 歳(男 75 歳、女 78 歳)であった。

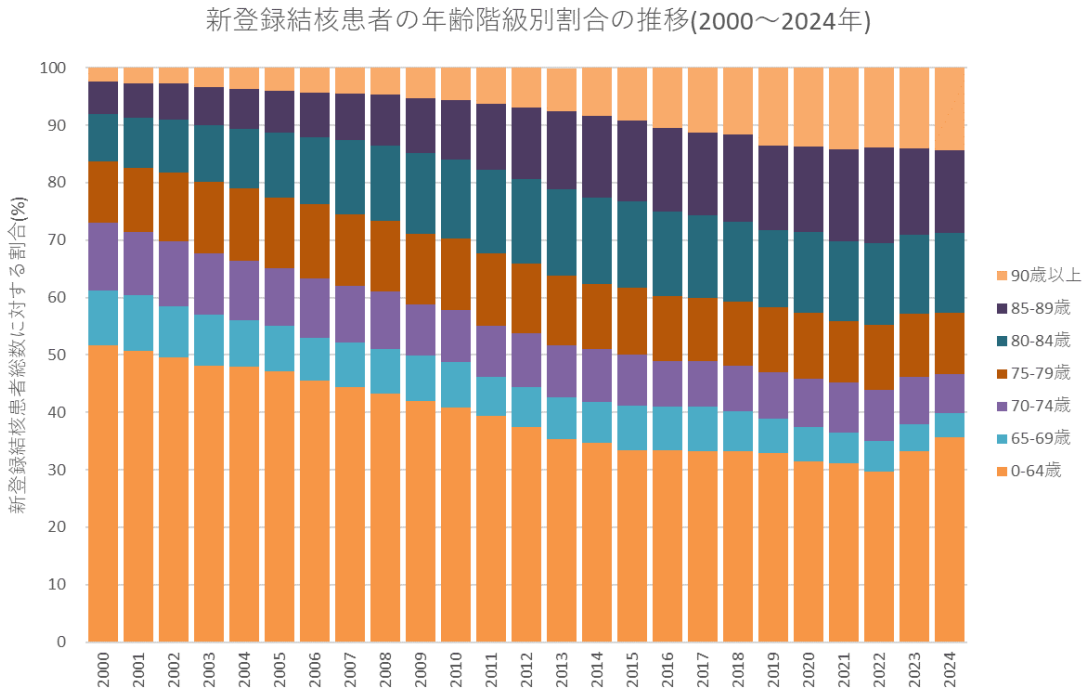


高齢者結核

2024 年の新登録結核患者のうち，65 歳以上の数は 6,468 人であった。

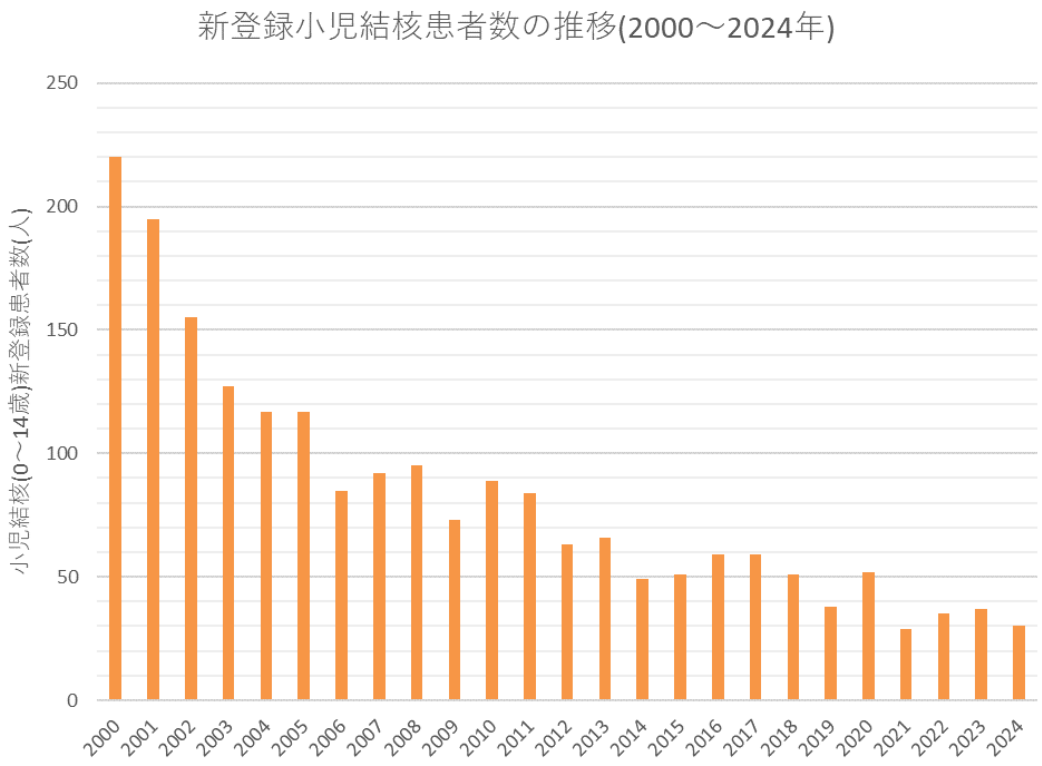
これは，新登録結核患者数全体のうちの割合で 64.4%を占めている。

80 歳以上の数は 4,295 人で全体の 42.7%であった。



小児結核

2024 年の 14 歳以下の小児新登録結核患者数は 30 人(男 16 人、女 14 人)であった。そのうち、日本出生は 23 人、外国出生は 7 人であった。



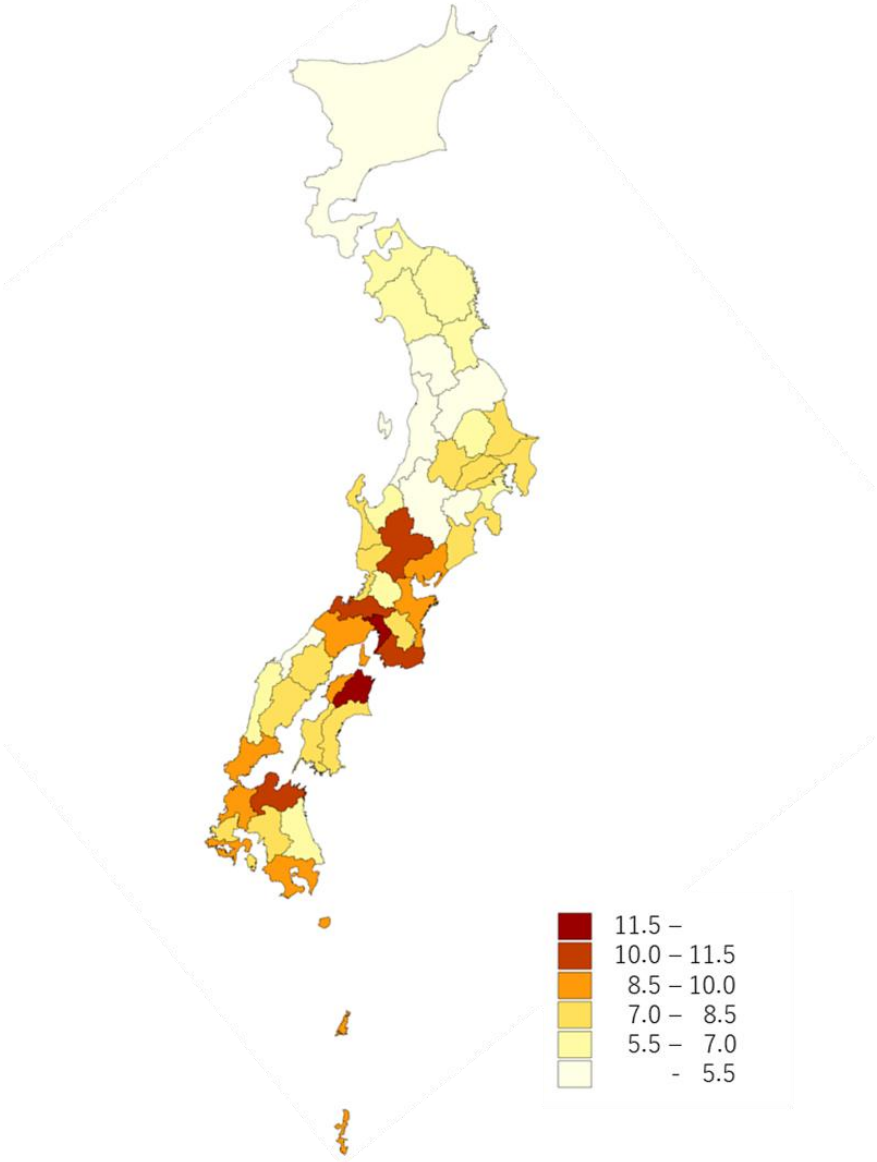
新登録結核患者の地理的分布

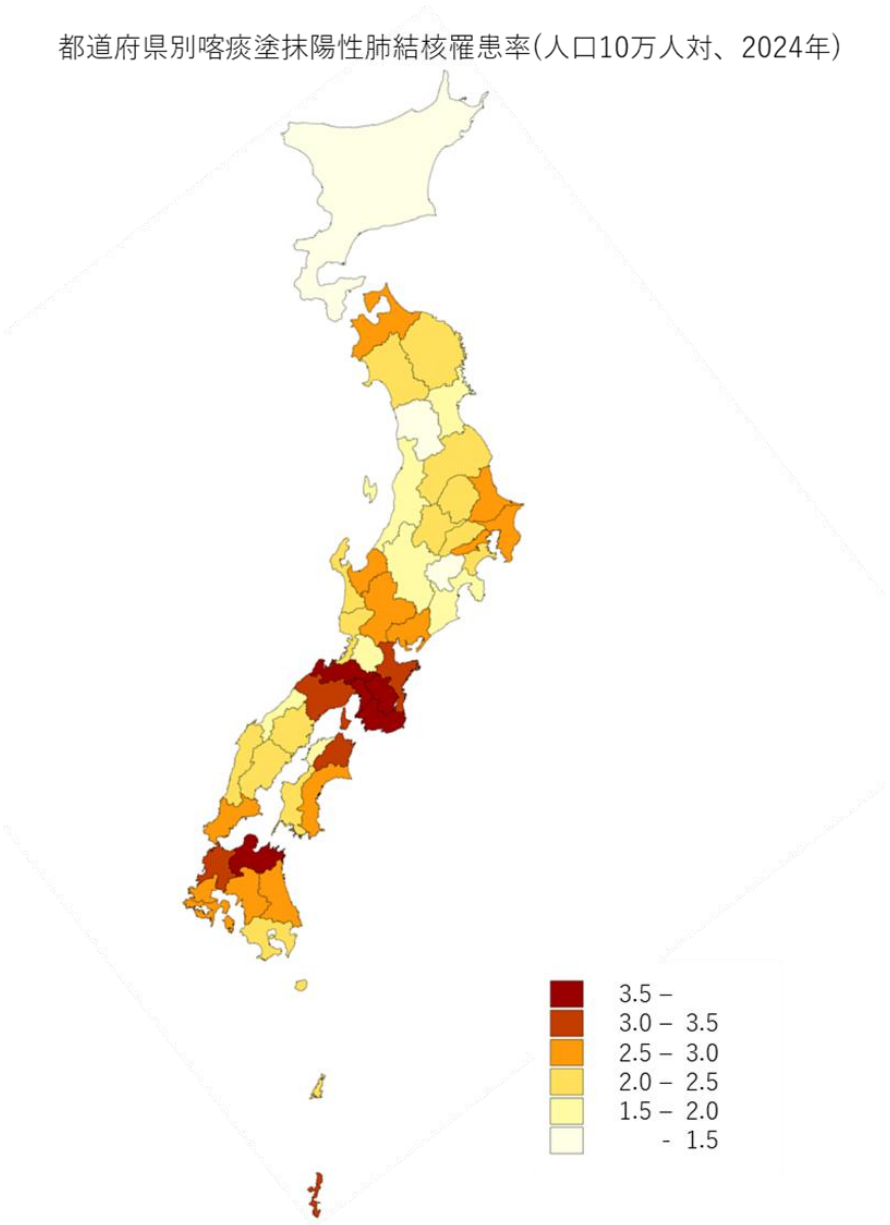
47 都道府県のうち、41 の都道府県が結核低蔓延の水準である結核罹患率 10 を下回った。

罹患率が最も低かったのは山形県の 4.1 であった。

最も高かったのは大阪府の 12.8 であった。

都道府県別結核罹患率(人口10万人対、2024年)





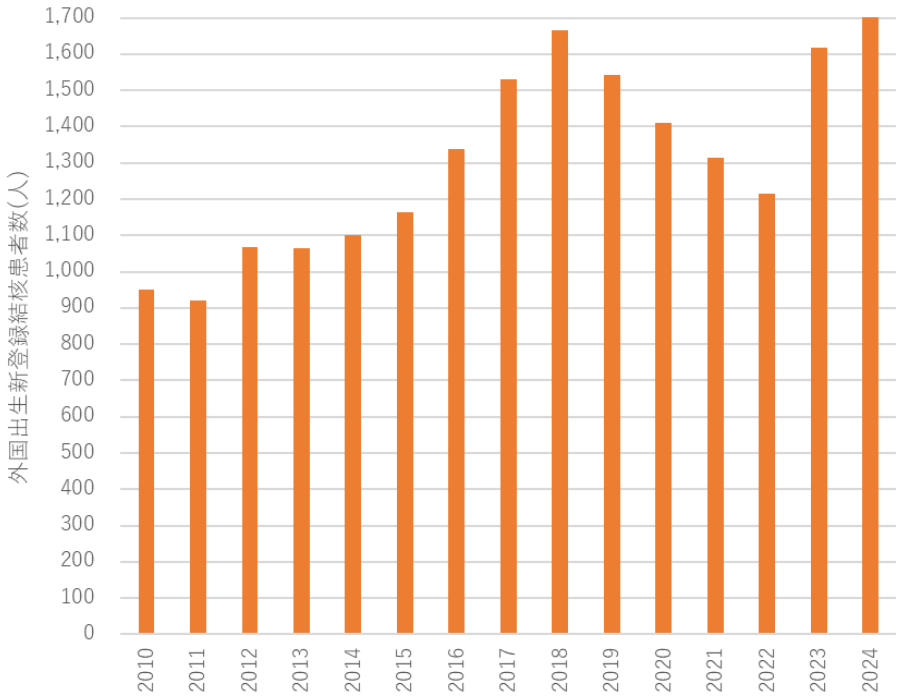
外国出生結核患者

2024 年の外国出生新登録結核患者数は 1,980 人であった。

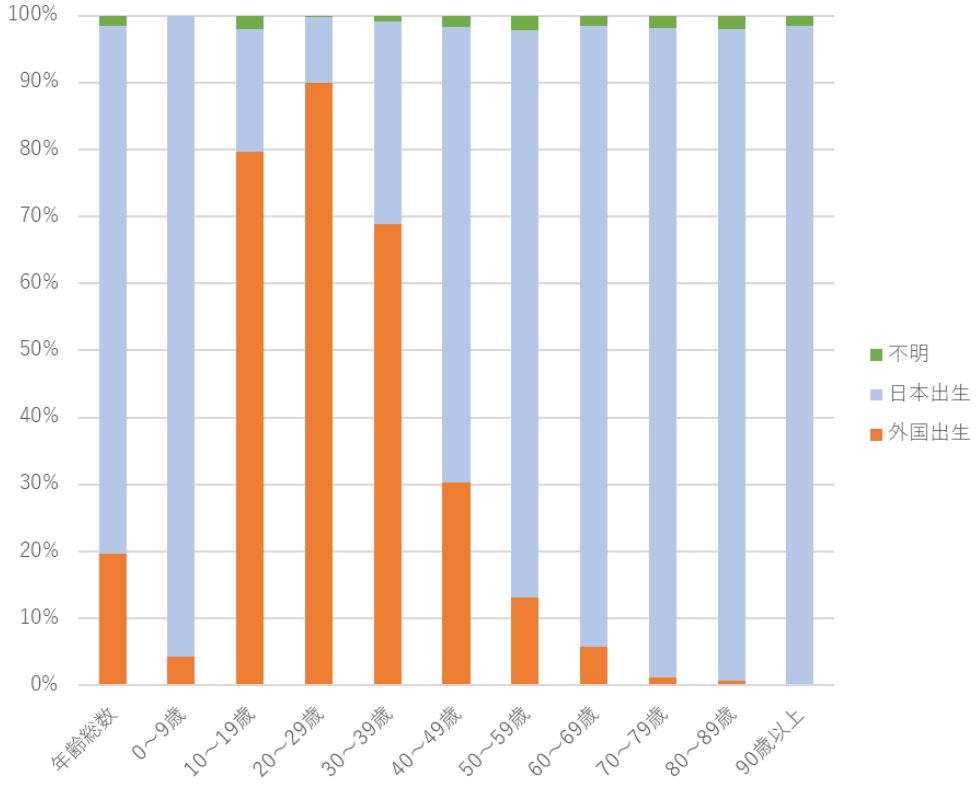
新登録結核患者総数のうち外国出生患者が占める割合は 19.7%で、20～29 歳では 90.0%であった。

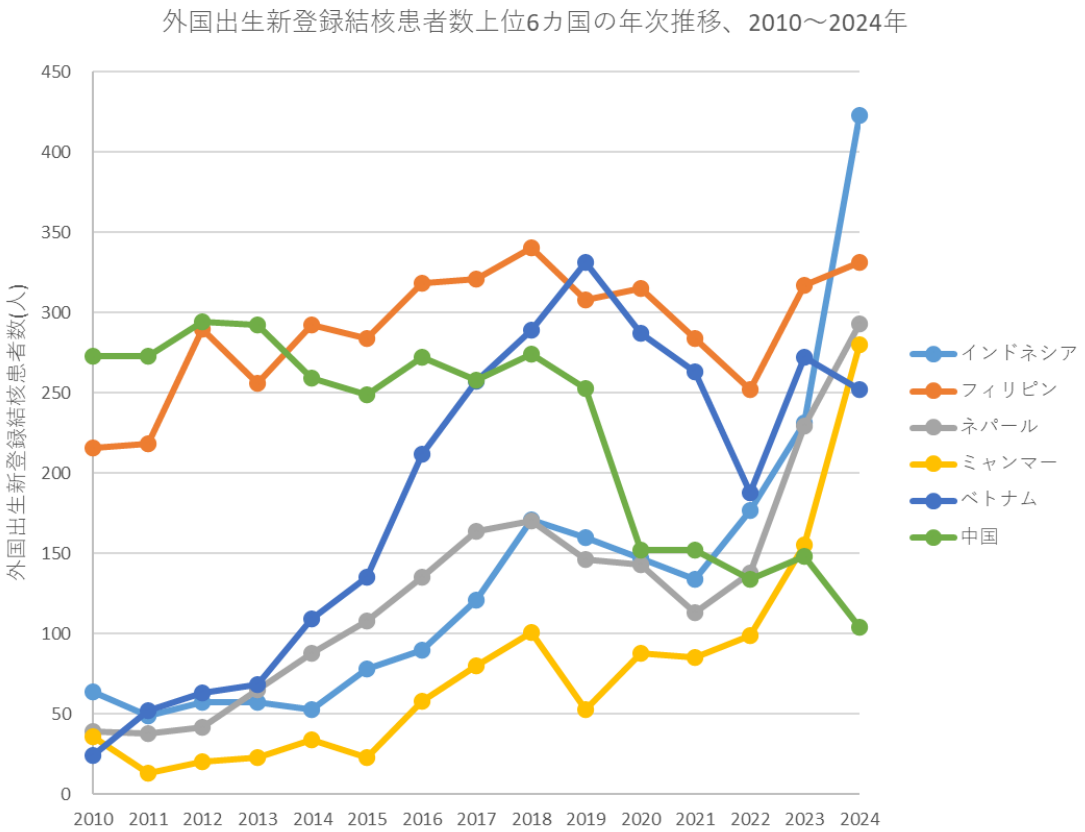
外国出生新登録結核患者の出生国はインドネシアが最多で、以下、フィリピン、ネパール、ミャンマー、ベトナム、中国となった。

外国出生新登録結核患者数の推移(2010年～2024年)



新登録結核患者の出生地別割合、年齢階級別、2024年





薬剤耐性

2024 年の新登録菌陽性肺結核患者* 6,423 人のうち，イソニアジド(INH)、リファンピシン(RFP)両剤の薬剤感受性結果が判明したのは 4,514 人（70.3%）であった。

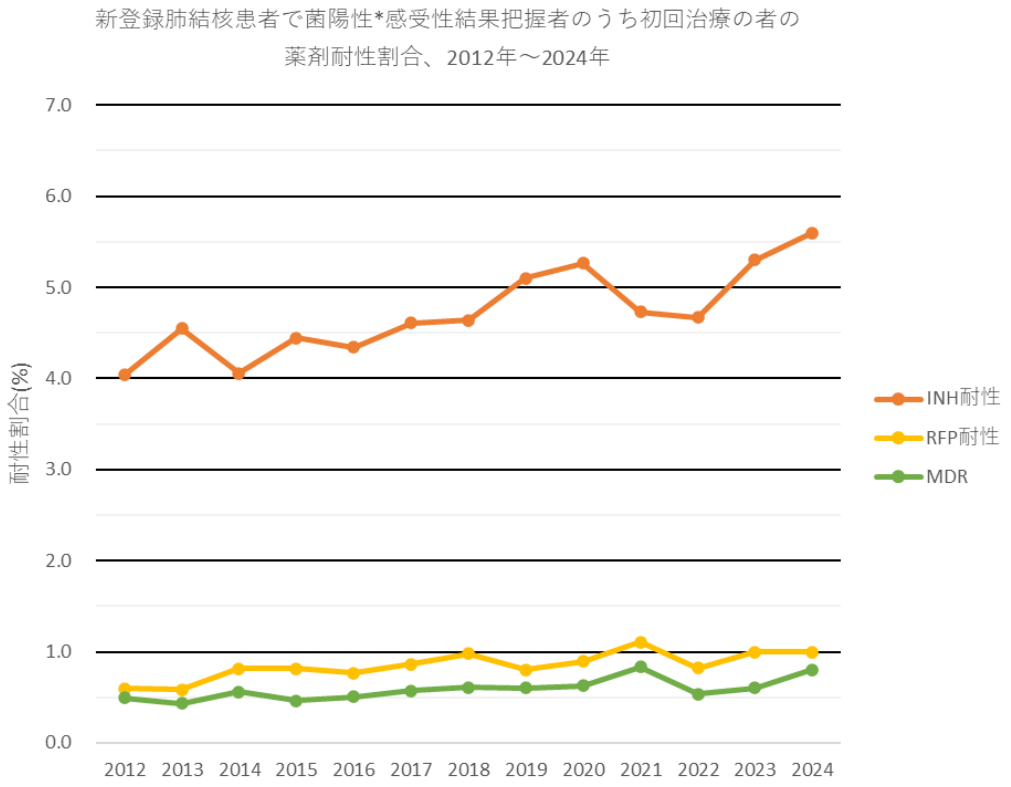
この新登録菌陽性肺結核患者*で感受性検査結果判明者 4,514 人のうち，INH 耐性は 264 人で 5.8%，RFP 耐性は 55 人で 1.2%，INH と RFP 両剤耐性（MDR）は 45 人で 1.0%であった。

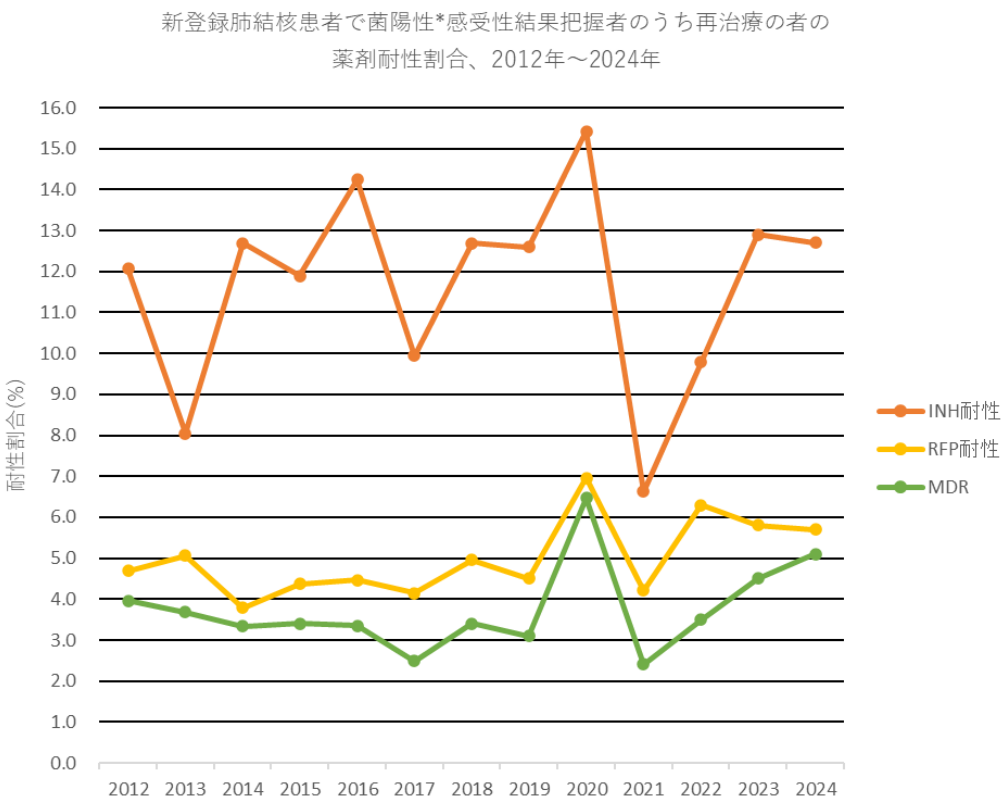
新登録菌陽性肺結核患者*で感受性検査結果判明者について、治療歴別では、初回治療 4,302 人**での INH 耐性は 5.6%（243 人）、RFP 耐性は 1.0%（45 人），MDR は 0.8%（36 人）であった。再治療 158 人**については INH 耐性が 12.7%（20 人），RFP 耐性が 5.7%（9 人），MDR が 5.1%（8 人）であった。

新登録菌陽性肺結核患者*で感受性検査結果判明者について、出生地別では、日本出生***3,694 人での INH 耐性は 5.1%（189 人）、RFP 耐性は 0.9%（32 人），MDR は 0.6%（23 人）であった。外国出生***773 人での INH 耐性は 9.6%（74 人）、RFP 耐性は 3.0%（23

人)，MDR は 2.8%（22 人）であった。

*ここでは、新登録肺結核患者のうち治療歴なし、または治療歴不明では、結核菌培養検査またはその他の結核菌検査での結果陽性患者を、治療歴ありでは、結核菌培養検査での結果陽性患者とした。
**他に治療歴不明の者が 54 人(うち MDR1 人)いる。
***他に出生地不明の者が 47 人いる。

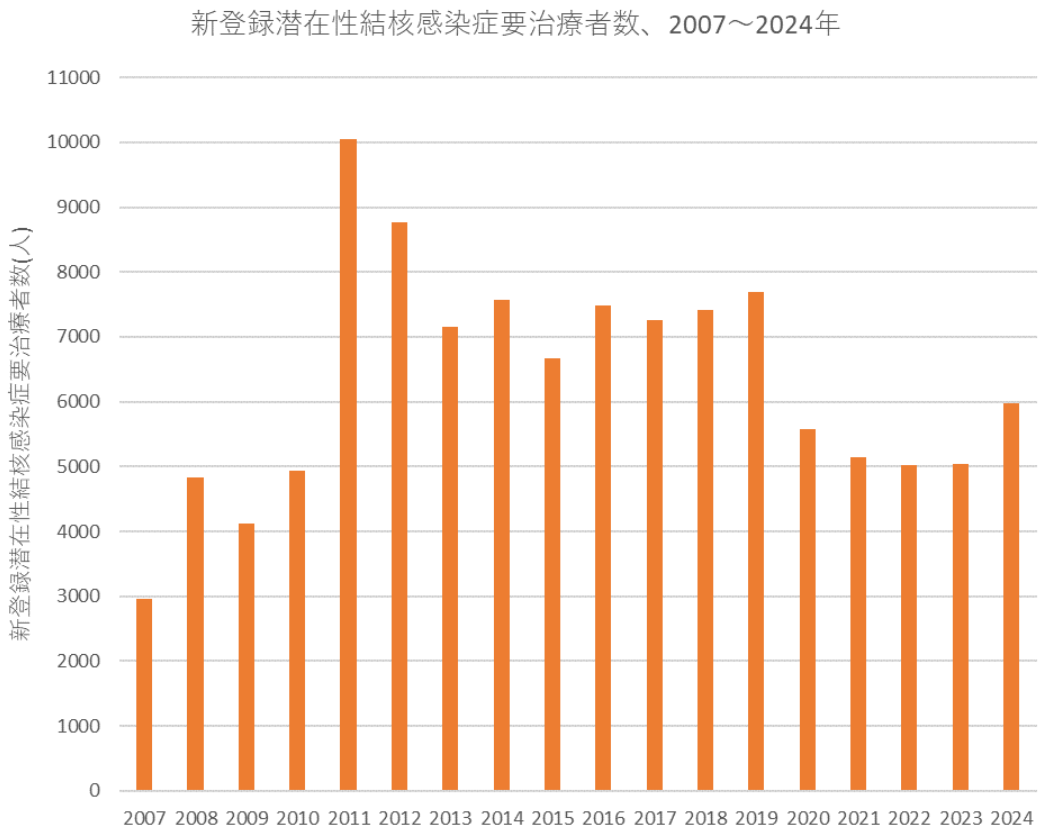




*2023 年までは培養陽性。2024 年は新登録肺結核患者のうち治療歴なし、または治療歴不明では、結核菌培養検査またはその他の結核菌検査での結果陽性を、治療歴ありでは、結核菌培養検査での結果陽性をさす。

潜在性結核感染症要治療者

2024 年の新登録潜在性結核感染症要治療者数は、5,967 人であった。そのうち、日本出生は 4,637 人(77.7%)、外国出生 1,223 人(20.5%)、不明 107 人(1.8%)であった。

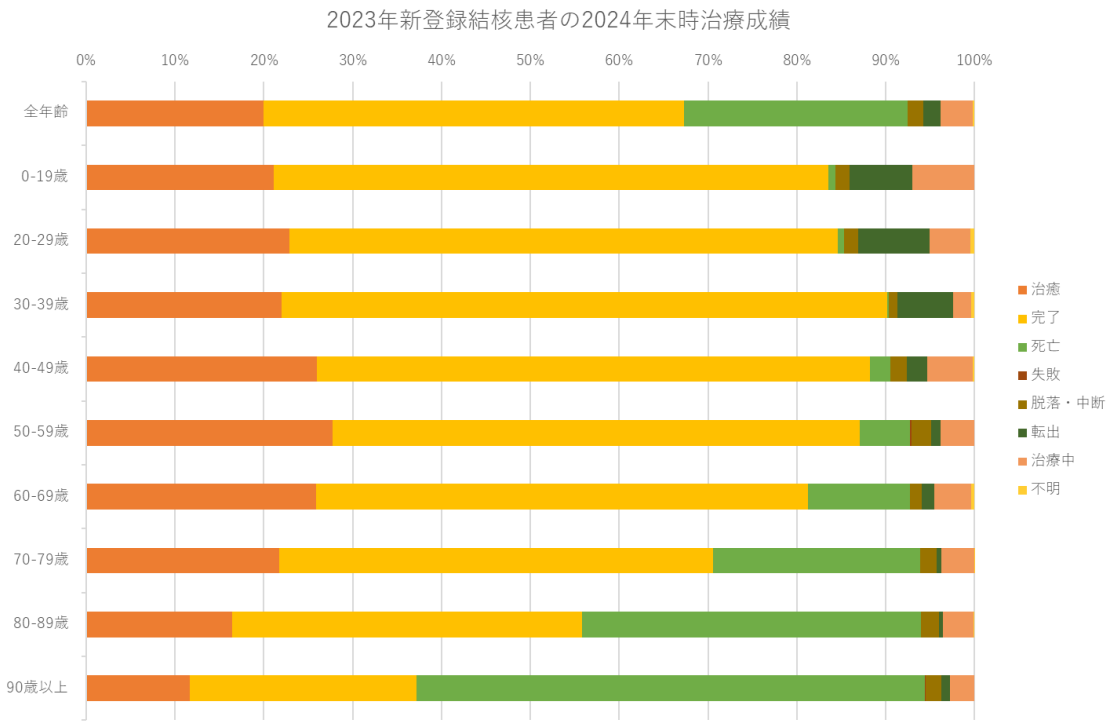


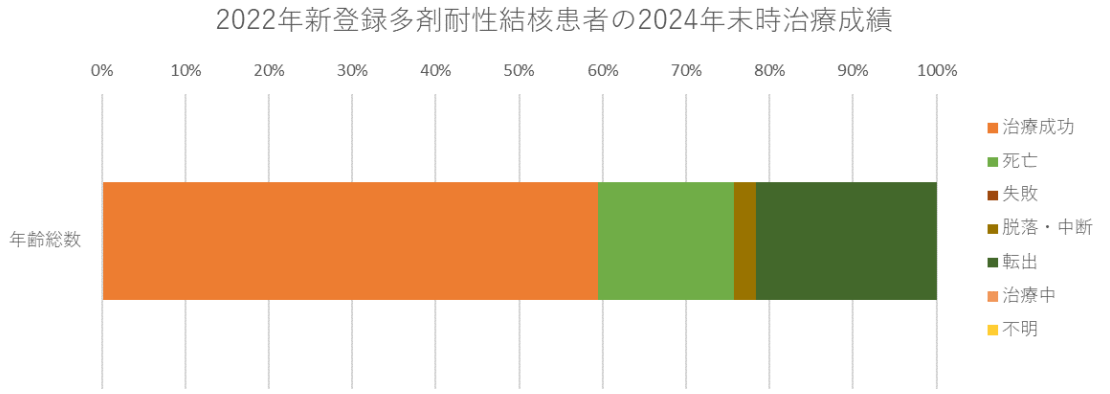
治療成績

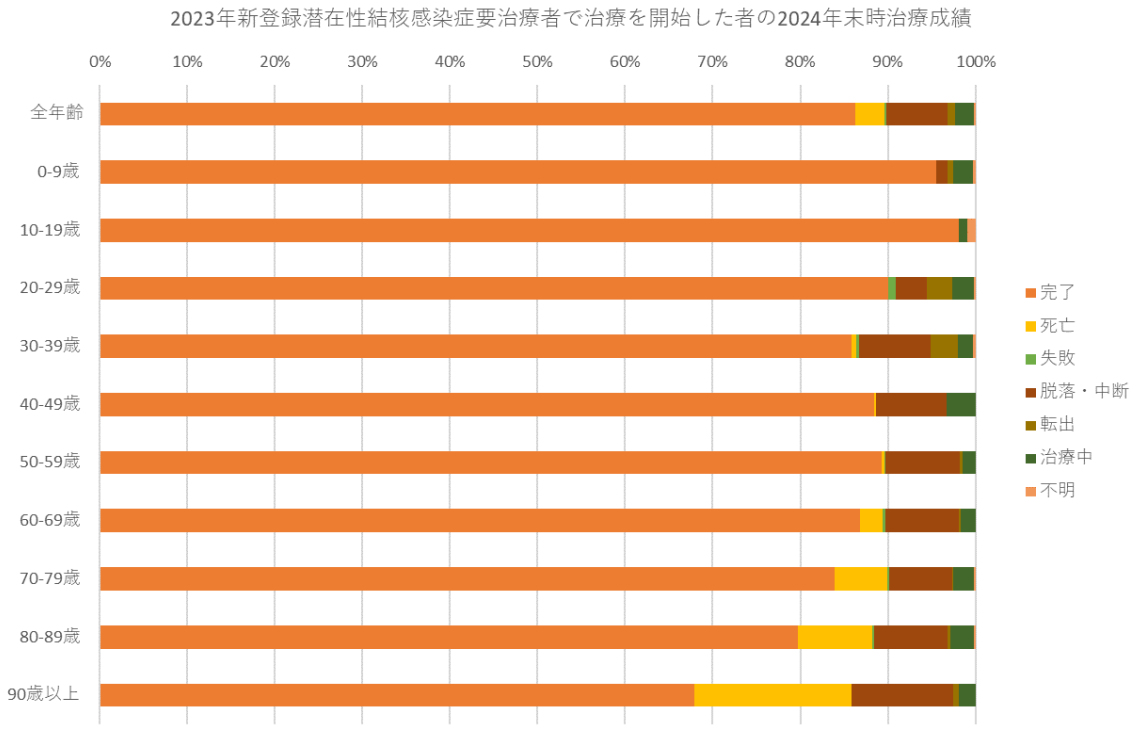
2024 年末時点における、2023 年新登録結核患者 10,086 人の治療成績は、治癒 19.9%、治療完了 47.4%、死亡 25.1%、失敗 0.04%、脱落・中断 1.8%、転出 1.9%、治療中 3.6%、不明 0.2%であった。治癒および治療完了を合わせた治療成功の割合は 67.3%であった。

2024 年末時点における、2022 年の新登録結核患者のうち INH および RFP 両剤が耐性である多剤耐性結核患者 37 人の治療成績は、治療成功 59.5%、死亡 16.2%、失敗 0.0%、治療中断 2.7%、転出 21.6%、治療中 0.0%、不明 0.0%であった。

2024 年末時点における、2023 年新登録潜在性結核感染症要治療者で治療を開始した 4,956 人の治療成績は、治療完了 86.3%、死亡 3.3%、失敗 0.2%、脱落・中断 7.0%、転出 0.8%、治療中 2.2%、不明 0.1%であった。


2023年新登録結核患者の2024年末時治療成績
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全年齢
0-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90歳以上
治癒
完了
死亡
失敗
脱落・中断
転出
治療中
不明


2022年新登録多剤耐性結核患者の2024年末時治療成績
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
年齢総数
治療成功
死亡
失敗
脱落・中断
転出
治療中
不明


2023年新登録潜在性結核感染症要治療者で治療を開始した者の2024年末時治療成績
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全年齢
0-9歳
10-19歳
20-29歳
30-39歳
40-49歳
50-59歳
60-69歳
70-79歳
80-89歳
90歳以上
完了
死亡
失敗
脱落・中断
転出
治療中
不明